

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	在宅看護概論	担当講師	小谷裕都子・藤原優子 内田美穂・橋本みどり 養父市健康福祉部介護保険課
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
科目設定のねらい					
本科目では、在宅看護における対象と基盤となる概念、安全と健康危機管理について基本的な知識を学ぶと共に、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割について基本的な知識を学ぶ。					
在宅看護は、人々が生活を営んでいる生活の場で看護を展開する。在宅看護の対象は、乳幼児から高齢者までのすべての発達段階にある人々であり、健康レベルや疾病を問わず、地域で暮らす生活者である。今までの生活史や価値観から形成されたありのままの生活を捉え尊重する必要性を理解するとともに、対象者のケアの担い手となる家族をシステムとして捉えて家族も含めて一単位とした在宅看護の役割を学ぶ。入院期間の短縮や医療依存度の高い人の増加に伴い、より重要となった退院支援や地域における多職種との連携・協働など多様なニーズに対して多職種とともに生活を支える看護の役割について学び在宅での看護実践に必要な知識を身につけることをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
10	1. 在宅看護の対象者とその生活、在宅看護の目標が理解できる	1) 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の目標	(1) 在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護のめざすもの ②在宅看護における看護師の役割と機能	講義	
		2) 在宅看護の対象と背景	(2) 在宅看護の対象者 ①疾病がある者と家族 ②障害がある者と家族 ③疾病や障害がある者の社会参加		
	2. 訪問看護の概要が理解できる	1) 在宅療養を支援する仕組み	(1) 在宅医療・介護に関する仕組み ・老人訪問看護制度 ・訪問看護制度 ・介護保険制度 ・後期高齢者医療制度	講義	
		2) 訪問看護制度の法的枠組み	(1) 介護保険 (2) 健康保険 (3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法>	講義	
		3) 訪問看護サービスの仕組みと提供	(1) 訪問看護ステーションの開設基準 (2) 訪問看護サービス開始までの流れ (3) 訪問看護サービスの展開 (4) 訪問看護サービスの質保障 (5) 訪問看護サービスの管理・運営 ボランティア等の必要性和連携	講義	
		4) 在宅療養者の自立・自律支援	(1) 価値観の尊重と意思決定支援 (2) QOL の維持・向上 (3) セルフケア (4) 社会参加への援助	講義	

2	3. 訪問看護の倫理が理解できる	5) 在宅における病状や病態の経過の予測と看護	(1) 病状・病態の経過の予測 (2) 予測に基づく予防 (3) 在宅の感染予防対策	講義
		6) 生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割	(1) 外来看護 (2) 訪問看護 (3) 入所施設での看護 (4) 通所施設での看護	講義
		7) 在宅療養者の家族への看護	(1) 家族の介護力のアセスメントと調整 (2) 家族関係の調整 (3) ケア方法の指導 (4) 介護者の健康 (5) レスパイトケア	講義
		8) 訪問看護の倫理要綱	【訪問看護倫理要綱】 ① 在宅看護対象者の権利 ② 訪問看護師の使命「療養生活支援の専門家」としての誇りと自律性 ③ 訪問看護師の実践上の責任 ④ 訪問看護師とケアチーム	講義
6	4. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携が理解できる	1) 地域包括支援センターとの連携	} (1) 機関・職種の役割 (2) 双方向で行う連携の目的と看護の役割	講義
		2) 居宅介護支援事業所との連携 3) 介護サービス事業所との連携 4) 住民との連携		
2	5. 在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメントが理解できる	1) 看護が担うケースマネジメント／ケアマネジメントの概念	(1) サービスの統合、ケアの継続性 (2) 残存機能の維持、向上 (3) 多様化したニーズへの対応 (4) 意思決定支援	講義
		2) ケースマネジメント／ケアマネジメントの過程 3) 社会資源の理解と活用	(1) ニーズのアセスメント (2) ニーズに合わせたサービスの選択・計画 (3) サービスを結ぶ付ける調整 (4) 実施、モニタリング、評価、フィードバック フォーマルサービスとインフォーマルサービス	
2	6. 療養の場の移行に伴う看護が理解できる	医療機関との入退院時の連携	(1) 地域連携クリニカルパス (2) 外来との連携 (3) 病棟との連携 (4) 退院支援部門との連携 (5) 診療所との連携	講義

2	7. 在宅における看護管理と経営が理解できる	施設との入退所時の連携	(1) 介護保健施設などの公的施設との連携 (2) サービス付き高齢者向け住宅等の民間施設との連携	講義
6	8. 在宅看護における安全と健康危機管理	1) 日常生活における安全管理 2) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	(1) 家屋環境の整備 (2) 転倒・転落の防止 (3) 熱傷・凍傷の予防 (4) 熱中症の予防 (5) 閉じこもりの予防 (6) 独居高齢者の防災 (1) 在宅療養者・家族への防災対策の指導 (2) 医療機関との連携による医療上の健康危機管理 (3) 福祉機関との連携による生活上の健康危機管理 (4) 行政（市町村・消防署・警察等）との連携	講義 講義
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 寺島 恵監修 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会			
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 河野あゆみ編集 強みと弱みからみた在宅看護課程+総合的機能関連図 医学書院 渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ：概論編・Ⅱ：実践編 日本看護協会			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	在宅看護援助論 I 「在宅療養において特徴的な疾患がある療養者の看護」	担当講師	西垣美奈子 但馬長寿の郷 橋本みどり
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい 本科目では、在宅療養者の特徴とその療養者の看護を学ぶ。 在宅療養において特徴的な疾患である認知症、精神疾患、難病、小児の在宅療養者の看護について学び、また、地域ケアセミナーにおいて、地域包括ケアシステム構築の必要性や多職種連携および福祉用具の活用と住宅改修の実際について体験学習を通して学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
6	1. 在宅療養において特徴的な疾患がある療養者と家族の看護を理解する	1) 認知症の療養者への看護	(1) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 (2) 療養者の自立支援と QOL の維持・向上（尊厳保持・成長、権利擁護＜アドボカシー＞含むのための在宅療養支援 (3) 在宅療養継続のための家族支援	講義	
6		2) 精神疾患のある在宅療養者への看護	(1) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 (2) 療養者の自立支援と QOL の維持・向上（尊厳保持・成長、権利擁護＜アドボカシー＞含むのための在宅療養支援 (3) 在宅療養継続のための家族支援	講義	
4		3) 難病がある在宅療養者への看護	(1) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 (2) 療養者の自立支援と QOL の維持・向上（尊厳保持・成長、権利擁護＜アドボカシー＞含むのための在宅療養支援 (3) 在宅療養継続のための家族支援	講義	
4		4) 小児の在宅療養者への看護	(1) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 (2) 療養者の自立支援と QOL の維持・向上（尊厳保持・成長、権利擁護＜アドボカシー＞含むのための在宅療養支援 (3) 在宅療養継続のための家族支援	講義	

8	2. 地域包括ケアシステム構築の必要性和、多職種連携の重要性及び福祉用具の活用や住宅改修の実践が理解できる	1) 在宅ケアセミナー 2) 福祉用具の活用と住宅改修の実践	(1) 地域ケアの概念 (2) 地域ケアの歴史と現状 (3) 自立支援とは (4) 地域における専門職の連携 (チームケア) (1) 福祉用具を活用して安楽で自立した生活への援助 (2) 住宅改修することで安全で自立した生活への	講義 * 但馬長寿の郷「地域ケアセミナー」 福祉用具展示場 - 見学と演習
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」 医学書院 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
参考文献	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 河野あゆみ編集 強みと弱みからみた在宅看護課程+総合的機能関連図 医学書院 渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ：概論編・Ⅱ：実践編 日本看護協会			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	在宅看護援助論Ⅱ 「病期に応じた対象者の看護、医療管理を必要とする人の看護」	担当講師	小谷裕都子・藤原優子 尾崎八寿子・米田真弓 橋本みどり
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

本科目では、病期や状況に応じて展開する在宅看護について基本的な知識を学ぶと共に、医療管理の支援について学ぶ。

医療の進歩や高齢化に伴い、慢性疾患や難病をもちながら在宅療養を行う人が増加している。また、在宅医療の推進により医療機器も簡易化し、在宅で医療管理を行いながら生活をする人も多い。慢性疾患は、今までの生活を再構築し病気と付き合いながら自己管理を続けていく必要がある。そこで、多職種と連携し健康維持のための看護の方法について学ぶ。また、在宅において医療管理が必要な人の看護を学ぶ

時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法
10	1. 在宅療養者の病期に応じた看護が理解できる	1) 日常生活動作＜ADL＞の低下および疾病の再発の予防が必要な療養者	(1) 日常生活のアセスメントと環境整備 (2) 在宅療養者と家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援 (3) 異常の早期発見と対応 (4) 社会資源の活用・調整	講義
		2) 急性期にある療養者	(1) 緊急性と重症度のアセスメント (2) 状態に合わせた対応・調整 (3) 急性症状への対応 (4) 感染症（肺炎等）への対応	講義
		3) 回復期（リハビリテーション期）にある療養者	(1) 在宅におけるリハビリテーション (2) 生活機能・日常生活動作＜ADL＞のアセスメント (3) 状態に合わせた対応・調整 (4) 合併症の予防と対策 (5) 居住環境のアセスメントと対応・調整 (6) 社会資源活用・調整	講義
		4) 慢性期にある療養者	(1) 慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント (2) 状態に合わせた対応・調整 (3) 急性増悪の早期発見と対応 (4) 社会資源活用・調整	講義
		5) 終末期にある療養者	(1) 症状マネジメント (2) 終末期緩和ケアの実際 (3) 看取りの援助 (4) 家族へのグリーフケア	講義

14	2. 在宅における医療管理を必要とする人と看護が理解できる	1) 薬物療法 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法（非侵襲的換気療法） 4) 膀胱留置カテーテル 5) 胃瘻・経管・結腸栄養法 6) 中心静脈栄養法 7) 褥瘡管理	(1) 服薬状況の把握と管理 (2) 医師および薬剤師との連携 (3) 糖尿病の管理 (1) 対象の特徴 (2) 機器の種類と原理 (3) 合併症の予防 (4) 安全管理と援助 (1) 対象の特徴 (2) 人工呼吸器の原理・特徴 (3) 気道浄化のケア (4) 合併症の予防 (5) 在宅における安全管理と援助 (1) 対象の特徴 (2) 合併症の予防 (3) 在宅における安全管理と援助 (1) 対象の特徴 (2) 栄養剤の種類と特徴 (3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 (5) 在宅における安全管理と援助 (1) 対象の特徴 (2) 栄養剤の注入方法 (3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 (5) 在宅における安全管理と援助 (1) 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防 (2) 褥瘡のアセスメントと処置 (3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 系統看護学講座 別巻く 救急看護 リハビリテーション看護 医学書院 河野あゆみ編集 強みと弱みからみた在宅看護課程+総合的機能関連図 医学書院 渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ：概論編・Ⅱ：実践編 日本看護協会			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	在宅看護援助論Ⅲ 「在宅での生活援助技術」	担当講師	橋本みどり
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

科目設定のねらい

本科目では、在宅療養者の状況に応じて展開する在宅看護に必要な知識と技術を学ぶ。
日常生活行動は自分なりのやり方があるように大変プライベートなことである。看護においてはその人のありのままの生活を受け入れ、これまでの生活や価値観を尊重した方法で行うことが重要である。そこで、療養者およびその家族との信頼関係成立に必要な、訪問時のマナーとコミュニケーション技術の理解が重要である。
また、活動や排泄などがどれだけ負担なく快適にできるかは、在宅療養の継続に関わることである。これらのことから在宅における生活援助技術は、基本的看護技術をもとに、生活の場に合った、療養者と家族のセルフケア能力を活かした方法を工夫する必要がある。一方、ありのままの生活を受け入れつつも健康に導くための教育支援が必要な場合もあるので、信頼関係を基に援助関係を構築するためのコミュニケーションをベースとして、多職種と連携をとりながら、よりよい生活が維持できるための生活援助技術の知識と技術を学ぶ。

時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法
4	1. 信頼関係の成立に必要な訪問時のマナーとコミュニケーションが理解できる	1) 在宅における療養環境を整える技術の実際	【在宅で看護を展開するにあたって】 (1) 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション ①在宅看護活動におけるコミュニケーションとは ②信頼関係が築かれるためのコミュニケーションのポイント (2) 在宅看護を展開する上で検討すべきポイント ①「活動の制限」のアセスメントと「生活行為」への支援 ②必要な介助を見きわめるための動作分析	講義 講義・演習
		2) 訪問時のマナーとコミュニケーション技術	(1) 在宅看護論における実習の手引き ①実習に向けた心構え ②服装や身だしなみ ③態度と行動 ④実習における学習方法 ⑤感染予防 ⑥事故・災害発生時の対応 ⑦個人情報の取り扱い	
10	2. 在宅療養生活を支える看護が理解できる	1) 食事・栄養	(1) 食事摂取能力（嚥下・消化・吸収能） (2) 食事内容の選択、食材の調達方法に関する援助 (3) 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助 (4) 食事摂取能力低下時の援助 (5) 口腔ケア	講義・演習
		2) 排泄に関する援助	(1) 排泄の状況と障害	講義・演習

		助	(2) 排泄補助用具の種類と選択方法 (3) 尿失禁の予防と援助 (4) 便失禁の予防と援助 (5) 便秘の予防と援助 (6) ストーマケア	
		3) 清潔排泄に関する援助	(1) 清潔の保持の状況 (2) 清潔の援助方法と自律支援	講義・演習
		4) 移動排泄に関する援助	(1) 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>のアセスメント (2) 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>の維持および向上のための援助 (3) 移動時の安全確保 (4) 移動補助用具の種類と選択方法	講義・演習
		5)呼吸排泄に関する援助	(1)呼吸管理・ケアの特徴 (2)呼吸に関するアセスメント (3)呼吸への援助のポイント	講義・演習
		6)認知機能のアセスメント法と援助技術	(1)認知機能とは (2)認知機能のアセスメントと援助の適応条件 (3)認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 (4)認知機能に障害がある療養者への在宅看護	講義・演習
1	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院			
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 河野あゆみ編集 強みと弱みからみた在宅看護課程+総合的機能関連図 医学書院 任和子編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論 I:概論編・II:実践編 日本看護協会			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			